



梁間にシーリングライトを設置し、遠方から光源が見えないように配慮した1階国内線チェックインロビー

阿蘇くまもと空港 新旅客ターミナルビル

航空旅客の居心地をデザインした九州のセントラルゲートウェイ

阿蘇くまもと空港の運営業務を民間委託されている熊本国際空港株式会社は、国内線・国際線共用の新旅客ターミナルビルを2023年3月に供用開始した。建物は、熊本城の黒漆・漆喰をイメージした陰影のあるデザインで、内装には熊本城の石垣や加藤清正の家紋などをモチーフに採用。鉄骨ラーメン構造の躯体は構造体を軽くするために柱スパンを広げ、開放感のある空間も実現。熊本県産小国杉をふんだんに使った木トラス天井が意匠性の高い吹き抜け空間を創り出している。国内線は白を基調として、チェック

インロビーでは梁間にシーリングライトを設置することで光源が見えないように配慮。保安検査後のエリアには、ゆっくり寛げる物販・飲食店舗を整備し、搭乗直前までの時間を食事や買い物で楽しめるように計画された。ラウンジでは広々とした空間に約200席を配し、ワーカーのための個室ブースや会議室も用意してビジネスユースに対応。さらに、国際線は黒を基調としたデザインで、出国審査場の通過後には、店舗面積が従来の10倍を超える免税エリアを整備し、ホテルライクな空間を創出している。2024年秋には商業ゾーンの拡充と広場整備により、熊本地震からの「創造的復興」を加速していく計画という。



阿蘇くまもと空港 新旅客ターミナルビル

所在地 熊本県上益城郡益城町
 事業主 熊本国際空港株式会社
 設計 日建設計・榕設計 設計監理共同企業体
 施工 大成建設株式会社
 商業内装環境 株式会社ディ・ブレイン研究所
 開業 2023年3月
 構造 鉄骨造 地上4階建
 延床面積 約37,800㎡



2層吹き抜けの出発階には木トラス天井に地元の熊本県産小国杉を使用。低天井の待合スペースはガラスレスシーリングライトにより光源の存在を抑えている



間接光とブラケットが重厚感を高めた「Lounge ASO」



店舗面積が格段に広くなった国際線免税エリア



足元に間接照明が設けられた展望デッキは間近で見送りができると利用者にも好評



軒下に防湿防雨シーリングライトを設け植栽もライトアップ

主な納入設備

- LEDシーリングライト ● LEDウォールウォッシャ ● LED建築化照明
- LEDブラケット ● LEDスポットライト ● 照明制御システム